

# やつおもて

第9号 (2015年10月)  
編集発行：和田公民館  
協力：公民館運営推進委員  
電話：(45-1918)  
eメール:wada-k@ph-hamada.jp



## ～和田地区いろいろ見て歩く記～

でたでたつきが～  おぼんのようなつきが～   
ま～るいま～るい まんまるい～

皆さんこんにちは。いかがお過ごしでしょうか。実りの秋がやってきました。新米、栗、サツマ芋、柿等々。実りの秋は食欲の秋でもあります。おいしいものがいろいろあって、嬉しい反面困った事も…でも折角ですからしっかり秋を楽しもうと思っています。皆さんの秋の楽しみは何でしょうか？(つぬ)

今回は重富廃寺について紹介します

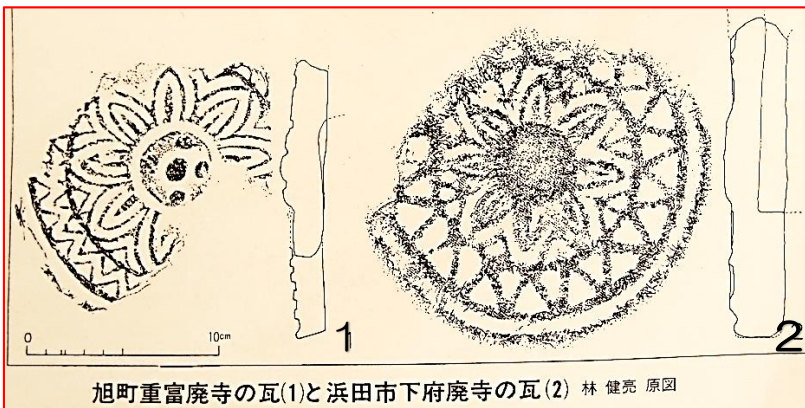
### 《重富廃寺》

古墳の造営が行なわれなくなる 7 世紀頃になると、大和政権の内部に政治的な大きな変化が起こるようになります。645 年の大化の改新や 672 年の壬申の乱は、その後の日本を律令制国家へと成長させた重大な事件でした。これによって全国にいくつかの国が設定され、各国はさらにいくつかの郡に分けられました。

石見地方が石見国として認識されるのもこの頃からで、旭町は奈良時代や平安時代には、石見国那賀郡都於郷に属していました。那賀郡という郡名が古代にさかのぼる古い地名で今日まで生きていることが知られます。

郡には長官としてその地方の有力豪族が郡司に任命されました。やつおもて古墳群のある丘陵の一角に奈良時代に建てられた重富廃寺跡がありますが、この寺院是那賀郡の郡司たちによって建立された可能性があるものです。建立された当時は、おそらく「〇〇寺」と言う寺院名が付けられていたことでしょう。ここから出土している軒丸瓦の文様は、同じ江川の下流域にある浜田市下府廃寺跡から発見されているものと同じ文様です。これらの瓦当(がとう)文様は他に類が無く、文様を通して二つの寺院が互いに深い関係にあったことが推測されます。

つぬです！



旭町重富廃寺の瓦(1)と浜田市下府廃寺の瓦(2) 林 健亮 原図

(1990 年旭町教育委員会「やつおもて 18 号墳」資料より)

★瓦当(がとう)…軒丸瓦の先端の円形部分をいう。

続いては和田地区に伝わる伝説のコーナーです

# 首塚(くびつか)

—「防六をあおぎて」より—



今から 150 年位前の江戸時代末期、八色神社の下に「宮の下」という宿があった。その日朝早く旅立つ二人連れがいた。一刻も早く三坂峠を越えたい。その表情から何か訳のある二人連れと思った宿の主人は、仔細は何も聞かず「気をつけて行きんさい」と見送った。

それから半時(1 時間)たって浜田から 1 人の同心が息を切らして宿の主人の前に現れ「二人連れは見なかったか?」と問うた。主人は正直に答えて去って行く同心を見送りながら「あの二人、早く芸州(広島県)に入ってくれば良いが…」と思うのでした。「いかに同心であれど三坂峠を越えれば芸州、二人に手出しなどできない



はず」と案じ二人の無事を祈ったのだが… ようよう三坂の峠を越えた二人は芸州大塚の町に入るところで同心に追いつかれた。二人は恋仲であった。「そんなに好いとるんなら夫婦にしてやるけえ、一緒に浜田に帰ろう。わしゃそう思って追ってきたんじゃ」の言葉に騙され手前の石州(島根県)に入った所で二人の首は落とされた。

その二人の首を荒縄で縛り竹竿にくくり付け宿の主人の所に寄った同心は「この下郎が妻と駆け落ちしやがってな。おかげで仇を取る事ができた」と礼を言う。まなこをひんむき、恨めしそうなその妻「お蓮」の目に宿の主人は腰を抜かさんばかりになった。

宿の主人に対する義理を果たした今、重い二つの首(10 キロ以上)は足を重くするばかり。これからの上り坂が思いやられる同心は和田の町をはずれ「すべり坂」を下る。(今の和田大橋の下)案の定すべり坂で白角川の縁まで首を転がしてしまった。

「やれやれ、もお用は済んだし…」思案に暮れて見廻すと左側のえきに「タブの木」が見える。その下は藪になっている。結局、二人の首はその中に投げ捨てられた。それから暫くしてその場所に「首塚」の碑が建てられたが今はその場所さえ定かでない。(一説に大石谷、岡崎さんの家の和田寄りの道路の下あたりと云う)(文・絵 佐々岡健次)



タブノキ  
クスノキ科の常緑樹



今では信じられない、  
悲しい時代でした…。



今回は八戸川流域に生息する「ホタル」についてお話することにします。

昭和 25 年頃までは家の中にまで入ってくるほど沢山飛んでいた「ほたる」が次第に少なくなり淋しくなった。何が原因で少なくなったが定かではないが、人間の日常生活が豊かになるにつれていなくなる生物は「ホタル」の他にもいる。「たにし」「しじみ」などである。してみるとやはり原因としては、洗剤や農薬などが考えられる。だが、洗剤や農薬も改良されて少しずつではあるが昔の環境に戻りつつある。

和田地区では、和田小学校や有志の方々に努力され下和田や重富川には沢山見られるようになった。

源氏ホタルは、前胸部の背中側は赤く、十文字の黒い模様が入っています



雄より雌が大きく、雌は約20ミリ、雄は約15ミリ位の大きさです。

市木川に多く見られるのは平成8年から増殖に取り組み、現在も引き続いて努力をしている。「ホタル」には、主に「源氏ホタル」「平家ホタル」「姫ホタル」の3種類がいるが、その中でも「源氏ホタル」の増殖に力を入れている。

「ホタル」の飛び交う時期は川によってまちまちであるが、6月の10日から20日頃までが見頃だと思う。

「ホタル」の最盛期を過ぎる頃から、「雌ホタル1匹」に「雄ホタル3匹」の割合で捕獲し植木鉢に岩コケを用意して、その中に「ホタル」を入れておくと1週間位で産卵する。そして、20~30日位でふ化する。その幼虫を育てるのは困難であるので、すぐ川に放流してやるのが得策で毎年続けていれば「ホタル」が増えてくる。

放流に当たっては、「ホタル」のエサは「川ニナ」であるので「川ニナ」のいる場所に放流しないと効果がない。「ホタル」の増殖で1番困難な事は、雌ホタルの捕獲で、危険も伴うので注意が必要です。

写真に撮った「ホタル」で雌と雄の見分け方を紹介して終わりとします。(文・榎本泰弘)



雌の発光器官は1節で尻尾が赤い

雄の発光器官は2節ある

どちらも淡い黄緑色をしており、1分間に約25~30回点滅します。

# 笑顔はね 心をいやす 魔法だよ

## ★移動図書館車のお知らせ★ どうぞご利用下さい

浜田市立図書館の移動図書館車「ラブック号」が公民館にやって来ます。来館予定日は  
10月14日(水) 11月10日(火) 12月8日(火) 1月13日(水) です



## 館長の今月の故事・ことわざ

かりるはちごう なすいっしょう  
借りる八合 納す一升

人から金や物を借りたら、お礼の気持ちを表すため、少し多めに、またちょっとした品物などを添えて返すのが筋だということ。

## \*中止のお知らせ\*

公民館でペットボトルのキャップを回収しておりましたが、諸般の事情により回収を中止しております。これまでご協力下さった皆様には心より感謝申し上げます。

今後は、①従来どおり資源ごみとして出す(ボトル、キャップ、ラベルが分離してあるとよりいいです) ②回収を取り扱っている事業所に持って行く などとして今までと同様にリサイクルにご協力をよろしくお願い致します。

## 次は ~つぬちゃんのこんなのやっていますコーナー~



5月から始めた「介護予防運動教室」もおかげ様で5回目を終了しました。

指導員の前田さんの明るく元気な声に乗って、参加者の皆さんも笑顔で運動をして頂いている様子です。運動あり、歌あり、おしゃべりありの教室です。お誘い併せてどうぞ参加下さい。



## あ と が き

「ハナエチゼン」の稲刈りが始まったばかりの頃、広島ナンバーの車を道路脇に止めて写真を撮っている方を見かけました。3脚を立てて立派なカメラのその方に思わず聞いてしまいました。「何が良くて写真を撮っておられるのですか？」と。その方は「休耕田が無く整然としている田んぼがきれいで写しています。」と言われました。残念ながら、休耕田はやむなくそうせざるを得ないというのが現状だと思います。その方の撮られた写真にはどのように写っているのでしょうか。(美)